

令和元年度 第2回宝塚市自立支援協議会 定例会 議事概要

日 時：令和2年2月7日（金） 13：30～15：30

場 所：宝塚市総合福祉センター2階 会議室

出席者：26名

議題

1 3月25日開催 令和元年度第2回全体会のプログラム確認（事務局より）

13時30分～16時30分 宝塚市役所 大会議室にて開催。

今回は講演を行わず、専門部会の活動報告と意見交換を中心に進行する。

また、全体会終了後には同会場にて障害者差別解消支援地域協議会（代表者会議）を開催する。

※前回の全体会で挙げた意見への回答

①地域生活支援拠点等の整備も謳われる中、「共生部会」や「地域包括ケア部会」等新たな専門部会の立ち上げも含め、協議会を再編すべきではないか。

⇒専門部会の新設については新たに事務局も割り当てねばならず、事務負担から見ても困難である。

既存の専門部会でも拠点整備に繋がる議論を行うことは可能と考えられるため、当面は現行の構成のまま協議会を運営する。

②拠点の整備に向け、自立支援協議会として西宮市の「ふれぼの」を視察してはどうか。

⇒全体会委員が集まって視察を行うのは困難であると考え。専門部会での協議の中で視察を行うべきという声が挙げれば、部会単位で視察を企画することは妨げない。

2 専門部会活動結果報告（※報告の詳細は各部会の活動結果報告書を参照されたい）

（1）けんり・くらし部会（地域移行Gr） 報告者：部会長

今年度は地域移行支援事業の活用促進を目的とし、事務局を担う相談支援事業所が中心となり市内の相談支援事業所職員を対象とした精神科病院の見学会やピアサポーターの活用促進に向けた情報収集及び伊丹市や西宮市等近隣他市で積極的に地域移行に取り組む相談支援事業所へのヒアリング等を行い、その活動報告を交えつつ専門部会を2回開催した。その取り組みから見えてきたものは精神科病院へ長期入院している人が「地域に戻りたい」と思えるようなきっかけ作り、そして声を挙げてもらうための働きかけとその声を聞き入れることができる仕組みづくりの必要性である。今後は関係機関が課題の共有を図りつつ、具体的な仕組みづくりのために何が必要であるのか協議を続ける。

また、「地域で暮らしたいという本人の思いは叶えられるべき」という意思決定に関する認識を委員の間で共有し、次年度以降の専門部会の議論に繋げていく。

○意見交換

今後、けんり・くらし部会は「けんり部会（現地域移行G r）」と「くらし部会（地域生活G r）」にそれぞれ特化していくものと考えている。地域移行G rにおいては、地域移行が進まないことにのみ着目するのではなく、「病院での暮らしの質を上げることが権利を守ることに繋がる」という着眼点の転換を行うべきではないか。

病床の利用率は経営に直結するため、今後も病院はあまり積極的に退院させようとしないうだろう。病院で長く過ごす人が多数であるならばそちらの生活を少しでも良いものにするのを考えた方が有意義であろう。

また、地域移行支援事業を客観的に評価することによって「なぜ活用が進まないのか」を検証する取り組みを行ってもよいのではないか。

（2）こども部会 報告者：部会長

今年度は「たからっ子ノート活用ガイドブック」について、市内相談支援事業所や各小・中学校、特別支援学校等に紙ベースでの配布を行った。

また、放課後等デイサービス事業所に対する送迎時の注意喚起文（交通法規の遵守や職員の名札着用の徹底等を促す内容）を作成し、教育委員会事務局から各放デイ事業所へ発送することとなった。

その後は虐待に関することや医療的ケア児への対応について委員間で情報共有を行いつつ、次年度以降のテーマについての意見交換を行った。その結果、テーマの一つとして「性教育」を取り上げることとなり、令和2年度中に講師を招いてこども部会主催による講演会を開くことを予定している。

○意見交換

- ・放デイ事業所に対する注意喚起文を送付するのに時間がかかったように見受けられる。送迎時の安全性などどの学校も重要視すべき事柄であるはずなのに足並みを揃えられないのは何故なのか。
⇒学校毎に関わっている事業所や送迎時のルール、校長の意向が異なることが要因であると感じる。
- ・虐待については今後こども部会でどう取り扱うのか。
⇒児童相談所や家庭児童相談室に所属する委員から現状の聞き取りは行ったが、部会のテーマとして展開するには至っていない。

（3）しごと部会 報告者：部会長

夏休み期間中の開催となった福祉事業所合同説明会は前年度以上の盛況となったばかりか遠方の特別支援学校からの来場もあり、イベントとしての認知度の高まりが感じられた。福祉事業所合同説明会と同じく7回目の開催となった雇用啓発セミナーでは、姫路市の「有限会社サポートセンターれいめい」から講師を招き、社会適応訓練事業を活用した同社の取り組みについてお話いただいた。「れいめい」との出会いによって再び前を向くことので

きた社員のエピソードもあり、参加者は終始熱心に耳を傾けており、講演終了後の質疑応答も活発であった。

部会のメインテーマである「他専門部会との横断的な取り組み」については、今年度中に他部会委員に向けたアンケートの作成を完了させ、令和2年度内にアンケートの実施と集計、その結果をもって令和3年度から具体的な取り組みを開始するという三か年計画で進めることとなった。

なお、来年度上半期には各部会にしごと部会の三役が出向き、直接アンケートの趣旨について説明を行うこととなった。(本定例会にて提案され、どの部会からも異論が出なかったため決定となった)

○意見交換

各専門部会を横一線に繋ごうとしているしごと部会の取り組みには個人的に賛成している。アンケート作成の進捗はどうなっているか。

⇒設問はほぼ決定し、文言の確認や構成等回答のしやすさに配慮した調整を行っている。

来年度の前半には各部会に配布し、来年度下半期の定例会では集計結果を発表したい。

(4) けんり・くらし部会(地域生活Gr) 報告者：部会長

「地域生活を送る上で困っていること」をテーマに据え、これまでに3回専門部会を開催した。「平時から出入りできる居場所」や「就労に関すること」、「災害時に関すること」、「障碍の理解に関することと啓発に資する取り組み」等課題の出し合いと意見交換を行い、今後の方向性を決めるための協議を行った。今後は「理解」と「居場所」をキーワードに引き続き議論を進めていく。

ワーキング「精神保健医療福祉連携推進会議」では「精神科病院を退院しようとする人に向けた地域紹介冊子」の作成が最終段階となり、タイトルが「ほっと♡たからづか～心の病を経験したら～」に決定し、構成は「当事者のリカバリーストーリー」、「地域生活Q&A」、「各種相談窓口」の3本柱となった。2月末の最終回で原稿を確定させ、印刷に移る予定である。

○意見交換

・「居場所」を考えるにあたり、「認知症カフェ」の取り組みは参考になるのではないかと考えているが、有効性と展望についてどう考えるか。

⇒地域特性にもよるが、行政や地域包括支援センターへの相談だけでは解決しない認知症に関する困りごとについて、地域の中で気軽に話すことができるという点で有用であると考えている。

・ワーキングで作成している冊子について、「回ごとに色々な意見が出るため、集約にやや苦慮した」との報告があったが、必ずしも期日を決めきって完成させなくてはならないものなのか。

⇒ワーキングの開催日以外でも事務局と委員の間でやり取りを行う等、できるだけ丁寧に

意見を吸い上げてきた。冊子の作成を始めたのは29年度であり、そろそろ内容は固めていかななくてはならない時期だと考えている。

・守備範囲が非常に広い部会であることは分かるが、「他にも色々あるが、とにかくこれをやる」という議論の軸を決めるべきではないか。課題を挙げていくばかりでは整理が追い付かないだろう。

⇒「制度やサービスを充実すれば課題が解決する」と結論づけるのは簡単だが、協議会の取り組みで実現させられることではない。理解の促進や気付きによって解決できる困りごとを見つめなおすために意見の出し合いを行っている。その中で「障碍のある人の暮らしがまだ十分に理解されていない」という課題に行き当たり、今後は有効な啓発策について協議を進めていく予定である。

⇒福祉業界に従事している人でも専門外の分野について理解することは困難である。

ましてや障碍のある人と普段関わりのない人へ理解を求めるのはなおさら難しいだろう。

そのようなことをいつまで協議会で議論するのか。他の部会にも同じことを何年も話し合い、結局明確な答えに辿り着けていないテーマがある。

⇒毎年開催するイベント等を軸にして年間計画を固めていく手法と、その都度課題抽出を行いながら新しいテーマに挑んでいく手法、どちらも一長一短であろう。

その二つの均衡を図りながら運営していくことが望ましい。

3 その他 報告者：宝塚市福祉推進室長

・障害福祉基金の活用について

活用策のあらましは上半期に報告したとおりである。

令和3年度に予定している委託相談支援事業所の増設についても同基金を活用する見込みである。

・宝塚市における地域生活拠点等の整備について

「相談」を軸とした面的整備を進めている。(委託相談支援事業所が地域包括支援センターと同じく市内7地区それぞれ分担し、基幹相談支援センターがそのスーパーバイズを行う)現在、民生委員連合会や自治会等に向け、拠点の構想に関する周知を進めている。

⇒各専門部会とも、今後の議論においては「地域生活支援拠点等」の整備を意識し、それぞれの協議の中で浮かび上がった拠点に関する課題を次回の定例会で共有する。

・基幹相談支援センターの設置について

令和3年度に市の直営にて設置の予定である。

全体会の日程等

令和元年度第2回宝塚市自立支援協議会全体会

令和2年3月25日(水) 13時30分～

宝塚市役所 3階 大会議室